地域福祉支援員について

１．地域福祉支援員とは

船橋市では、共助社会の構築を進めていくためには、地域ぐるみの活動を活性化する必要があることから、平成１８年度より、本市特有の事業として、地域における福祉活動を側面から支援する「地域福祉支援員」を地域福祉課に配置している。

【引用元：第４次船橋市地域福祉計画（P87）】

２．重層的支援体制整備事業との関係

重層的支援体制整備事業は、

① 相談支援（属性にかかわらず、地域の様々な相談を受け止め、自ら対応又はつなぐ機能）

② 参加支援（社会とのつながりや参加を支援する機能）

③ 地域づくりに向けた支援（地域づくりをコーディネートする機能）

の３つの支援を柱として、一体的に実施するものであるが、本市では地域福祉支援員を「③地域づくりに向けた支援」に当たる事業として位置付けている。

３．重層的支援体制整備事業交付金実施計画における成果目標

- 地域の社会資源やニーズを把握するために、市内２４地区コミュニティにある地区社会福祉協議会を年に各２回以上訪問し、地域づくりへつなげる。
- 生活支援サービス活動を視察・支援し、市内へ生活支援サービス情報を発信することで、ニーズと社会資源のマッチングへつなげる。
- 生活困窮者自立支援制度の各事業や重層的支援体制整備事業の各事業を活用しながら、既存のサービスにあてはまらない地域住民のニーズに対応する地域づくりに向けた地域住民の活動を支援し、地域住民が相互に助け合う共助社会の構築を目指す。

４．令和６年度実績

（１）概要

地域福祉支援員は地区社会福祉協議会（以下地区社協）や地域住民団体の事業に積極的に出向き、顔の見える関係性の構築に努めている。

（２）令和６年度地域福祉支援員地域訪問実績

令和6年		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	計
①地区社協訪問	地区社協事業	1	0	3	0	2	1	2	3	2		14
	第2層生活支援コーディネーター面談	0	0	11	11	0	0	0	0	0		22
	その他（福祉まつりを含む）	0	2	1	1	3	4	13	13	4		41
②市民活動団体視察（たすけあいの会含む）		0	0	0	1	0	0	1	2	2		6
③地域ケア会議参加		0	1	1	0	1	0	0	1	2		6
④その他（出前講座、たすけあいの会情報交換ネットワーク等）		0	0	0	2	0	1	2	0	1		6
計		1	3	16	15	6	6	18	19	11	0	95

（件）

（３）効果・事例

①地区社協訪問

令和５年度と同様にミニデイサービスやふれあい・いきいきサロンをはじめとした地区社協の事業に参加するとともに、各地区で活動している第２層生活支援コーディネーター（※）を訪問して面談することで、各地区の状況の把握や課題・目標の共有をすることができた。

※平成２７年度から高齢者の生活支援・介護予防サービスの充実に向け、ボランティア等の生活支援の担い手の養成・発掘等の地域資源の開発やそのネットワーク化を行うことで、地域における生活支援体制を構築することを目的とした「生活支援コーディネーター」を配置している。地域福祉支援員は市町村全域の担当である第１層生活支援コーディネーター業務を担当しており、市が船橋市社会福祉協議会に委託して各地区社協に１名ずつ配置している第２層生活支援コーディネーターと連携して活動している。

②市民活動団体視察（たすけあいの会含む）

ゴミ出しなどの家事援助を中心とした地域住民同士で行う「助け合い活動」や、地域住民が集まるサロンを実施している市民活動団体を視察した。令和６年度はたすけあいの会の定例会や実際の活動に参加させてもらうことで、より詳細な実情の把握につながった。団体ごとに活動の特色があり、ニーズに応じた団体数の増加やボランティアの増加に向けて、課題や展望を整理していきたい。

③地域ケア会議参加

地域ケア会議にオブザーバーとして参加することで、地域の現状や抱えている問題点の把握に努めた。令和６年度は地域ケア会議の中でも「自立支援ケアマネジメント検討会議（※）」に多く参加した。自立支援ケアマネジメント検討会議は第２層生活支援コ

ーディネーターが構成員として参加しており、対象者の自立支援につながるような地域資源の紹介などをしている。ケアマネジャーから実際に地域で暮らす高齢者のニーズを聞くことができ、地域資源の把握・発掘の参考となっている。

※自立支援ケアマネジメント検討会議…地域の多様な専門職等が協働し、ケアマネジャーへの支援を通じて、高齢者が住み慣れた地域で自ら望む暮らしをいつまでも続けられるよう、利用者本人の能力を最大限に引き出し、地域資源を活用しながら自立支援及び生活の質（QOL）の向上につなげることを目的とした会議。

【引用元：船橋市ホームページ「船橋市地域ケア会議」】

https://www.city.funabashi.lg.jp/kenkou/koureisha/001/p057357.html

④まちづくり出前講座、たすけあいの会ネットワーク情報交換会等参加

地域住民団体やふなばし市民大学校のボランティア養成学科で「地域でできるボランティア」のまちづくり出前講座を実施した。同講座内で、地区社会福祉協議会職員から地区社協についての講座も同時に実施してもらっている。また、ボランティア養成学科では地区社協での実習が必須となっており、実習を経て数名が地区社協のボランティアに登録し、ボランティアの増加に繋がった。

船橋市社会福祉協議会（以下、市社協）が実施したたすけあいの会ネットワーク情報交換会に参加し、市内のたすけあいの会構成員と日頃の活動状況や課題について情報共有を行った。ここで交換した情報を活かし、第２層生活支援コーディネーターは各地区でニーズに応じてたすけあいの会の立ち上げ支援などに取り組んでいる。令和６年度は新たに２団体のたすけあいの会が立ち上がった。

⑤民生委員・主任児童委員の重層的支援会議・支援会議出席

地域で見守りの体制を築くために、支援対象者が住む地区を担当する民生委員・主任児童委員に、重層的支援会議・支援会議への出席を依頼した。会議では実際にその地域で活動する民生委員・主任児童委員だからこそ知り得る情報や意見が出るなど、支援の参考となる情報が収集できたとともに、民生委員・主任児童委員に支援対象者の情報を共有することで地域の見守り体制が強化された。

⑥第２層生活支援コーディネーター・「保健と福祉の総合相談窓口　さーくる」との連携

第２層生活支援コーディネーターが市民活動団体やサロンなどを訪問する際に同席することで、地域の実情を把握するとともに第２層生活支援コーディネーターと連携して活動することができた。

また、令和５年度までは第２層生活支援コーディネーターが各自で広報活動を行っていたが、地域住民や専門職とより多くの繋がりを築くため、市社協や第２層生活支援コ

ーディネーターの意見を参考に第１層生活支援コーディネーターが「生活支援コーディネーターチラシ」を発行した。各地区で地区社協窓口や事業・地域ケア会議や地域の集いの場等で配布し、生活支援コーディネーターの周知を図った。今後も必要に応じて内容を更新し、継続的に地域住民や関係機関に周知を図ることで第２層生活支援コーディネーターの活動を推進していく。

新たな取り組みとしては、第２層生活支援コーディネーターと「保健と福祉の総合相談窓口　さーくる」職員を対象に、一緒に地域を歩くフィールドワークを実施する。各々地域資源の把握や発掘を実施しているが、日頃の活動では関わる機会の少ない両者が、グループに分かれて異なる視点で地域を歩き意見を交換することで、新たな視点を得ることや、双方の顔の見える関係性の構築を目指す。